

令和8年3月11日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立鷹番小学校
校長 板木 孝悦

令和7年度 目黒区立鷹番小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

- (1) 第1回実施日時 令和7年6月11日(水) 午後5時～午後6時
 - ・令和6年度の学校評価報告書
 - ・令和7年度の学校経営について
- (2) 第2回実施日時 令和7年9月20日(土) 午前10時30分～午後0時
 - ・学校参観
 - ・令和6年度の教育活動について
- (3) 第3回実施日時 令和8年1月19日(月) 午後5時30分～午後6時30分
 - ・令和7年度の学校評価について
 - ・令和8年度の教育活動について

2 参加者

- ・戸田 哲郎 (鷹番住区住民会議副会長 碑文谷六丁目自治会長)
- ・吉池 貴夫 (鷹番住区住民会 青少年部会)
- ・高林 大 (鷹番小学校同窓会 会長)
- ・此元 悦子 (教育関係者)
- ・西 則彦 (前PTA会長)

3 評価の結果等

※四者…児童・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと。

評価項目	◎(成果)、●(課題)、 ◎(成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見 (学校運営協議会での意見)
I 学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて、家庭・地域との連携、地域人材の活用などについて	◎四者ともに肯定的な評価が80%以上であり、学校全体への評価は概ね良好である。学校公開のアンケートにおいても児童が落ち着いて学習をしているや学習用情報端末が上手に活用されていて発言の内容が伝わりやすいなど肯定的な声が多数寄せられている。 様々な教育活動を工夫して実施するとともに児童に寄り添っ	・令和8年度は、校舎建て替え工事の一環で、校庭の広さが大きく減少する。そのため、休み時間や体育の授業などの工夫が重要となる。40分午前5時間制を生かし、生み出した時間の充実に工夫を図り、週の時程を工夫することで、児童の生活や学習を支える。また、引き続き、ていねいな児童理解を進め、児童により寄り添う指導や支援を行う。特に1年生	・校舎建て替えや環境の変化に向けて様々な意識の転換が必要とされている中、学校が工夫していることが分かった。子どもたちのストレスを減らし、安心、安全に過ごせる環境づくりに今後も励んでもらいたい。

	<p>た児童理解、指導を深める努力の結果と考えられる。また、情報発信にも力を入れ、児童の活動の様子等を周知できたことが要因ととらえられる。</p>	<p>では、スタートカリキュラムの改善を行い、多くの目で見守ることのできる体制づくりにも努める。</p>	
<p>II 教育目標について ・教育目標、時程、教育内容全体について</p>	<p>◎四者ともに肯定的な評価が80%以上であり、教育目標への評価は概ね良好である。教育目標を機会あるごとに児童へ周知するとともに、学年経営、学級経営、専科経営の際に絶えず学校教育目標と関連付けたことが要因ととらえられる。また、学校だよりや Home & School で教育目標を具体化した教育活動の様子を発信したことも要因ととらえられる。</p>	<p>・教育目標を様々な教育活動と関連させ、児童や保護者、地域への発信に努めることで、教育目標の具現化を図る。</p> <p>具体的には、・引き続き、学校公開の際に様々な教育活動の様子を見ていただいたり学校行事に参加していただいたりする機会をもつとともに様々な情報ツールを活用し、教育活動の様子を周知するように努める。</p>	<p>・教育目標と活動内容について、保護者がさらに理解を深めるために、保護者が学校行事に参加すること、例えば運動会で親子競技を導入することや、学校公開で保護者参加型にする等が、大切なのではないか。</p>
<p>III 心の教育について ・道徳科の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について</p>	<p>◎児童においては肯定的な評価が90%以上であり、日頃の道徳の授業や異学年交流や自らの生活や学習を振り返るたかばんタイムの充実が要因ととらえられる。</p> <p>●保護者の評価は80%に少しかけ、特別の教科道徳を要として学校全体で道徳教育を展開しているものの、その取組を発信し、共有するという点では課題があると考えられる。</p>	<p>・教育目標の「やさしく」に関連した教育活動の充実を図る。</p> <p>まず、日々の授業、特に道徳科の授業において、教育目標の一つである「やさしく」を意識し授業を実施する。</p> <p>また、「たかばんタイム」で自己の目標を立てる際に「やさしく」の観点を重視したり、「ぼかぼかタイム」の活動のねらいや具体的な行動目標等を意識させたりすることで児童自身が「やさしく」を日常的に実践</p>	<p>・「やさしく」に重点をおくことについて、鷹番小の子どもたちはすでに優しいと感じている。小学生の体力が落ちているニュースがあるため、へこたれない「たくましく」が必要かもしれない。</p> <p>・「やさしさ」を育てることについて、年齢の違う方や障害のある方のコミュニケーションの機会をもったり、地域や大人の仕事体験をしたりして、違う立場の人を理解する機会がある</p>

		<p>していくよう促す。日頃の道徳における児童の様子などを保護者に学級だよりなどで発信する。</p>	<p>とよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手を肯定しながら自己主張する強さも必要。攻撃的ではなく芯の強さやぶれない軸への教育も検討してほしい。
<p>IV 学習指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、習熟度別指導、〇〇タイム、主体的に学習に取り組む態度等の取組について ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について 	<p>◎児童は肯定的な評価が90%以上であり、学習指導等への評価はかなり良好である。これは、1単位時間の授業を充実させるため、鷹番スタンダードとして、「見通し」、「伝え合い」「学習用情報端末の活用」の3つの視点を設定し、日々の授業改善を図ったことが要因ととらえられる。</p> <p>●保護者は肯定的な評価が70%台であり、保護者の期待よりも児童の現状が低いことが要因ととらえられる。学力調査からも基礎的な内容の習熟の面で課題が残る教科や内容があることも要因と考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コンテンツタイム」を活用し、教材研究に一層努めることで授業改善を図る。授業改善の観点として主に①見通し②伝え合い③学習用情報端末の活用を学校として一層推進する。 ・40分の授業、総合的な学習の時間、生み出した時間である「チャレンジタイム」の関連をより明確にすることで、児童の主体的な学びの実現を図る。 ・「マイタイム」の目的である基礎学力の習熟がより図られるよう内容の改善を図る。 ・第5学年の自然宿泊体験教室の充実を図るため、教育委員会事務局や関係業者と連携し、工夫した計画のもと、実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一度分からなくなるとその教科が苦手になることもあるので、教員が個別面談をすると助かる子もいるのではないかな。
<p>V 体育・健康教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上、健康の促進に向けた取組について 	<p>◎四者ともにほぼ肯定的な評価がほぼ80%、または、80%以上であり、体育・健康教育への評価は概ね良好である。日常の体育科の授業だけでなく、運動会、パワーアップタイムなどの体育的行事</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎建て替え工事によって限られる学校施設をより有効に活用するために年間の行事や週の時程を工夫する。 また、日常の体育科学習や「パワーアップタイム」では、運動の日常化を目指す。特に、体力テ 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力を付けることは大事である。 ・登下校や地域のお祭り等をみて、筋力が弱そうな児童が見受けられる。体育以外の普段の授業でも、姿勢の強化を検討してもらいたい。

	<p>全般の意義やねらいを明確にし、体を動かす楽しさを味わわせてきたことが要因ととらえられる。また、運動会の行事アンケートにおいても、子どもたちの運動会への取り組みを賞賛する声を多数寄せられた。</p> <p>◎体力テストからは上体起こしは全国平均よりも優れている反面、反復横跳びや20mシャトルランは平均以下なので課題が残る。</p>	<p>ストの結果をもとに自分なりの目標を持たせ運動に向き合う工夫を行う。俊敏性や持久力等の課題には、1校1取組の活動の中で改善を試みる。さらに、運動と健康との関連も意識した学びの機会をもつことで、高学年の児童の意欲や関心を育む。</p>	
<p>VI 特別活動について</p> <p>・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の充実などについて</p>	<p>◎四者ともに肯定的な評価が80%以上であり、特別活動への評価は概ね良好である。音楽会のアンケートでも、各学年の合奏や演奏がそれぞれ学年のカラーの違いがあり演習等々にも違いがありとても楽しむことができたなどと多数の肯定的な声をいただいた。</p> <p>これらは、各学年の発達課題に応じた特別活動を展開することで、自主的・自発的に活動することの楽しさを味わっていることが要因ととらえられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の満足感や充実感につながる特別活動を計画し、内容を工夫して実施する。 ・全学年が関わる特別活動については高学年の過度な負担につながるよう工夫した計画で実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽会はとてもよかった。子どもや先生たちの工夫やアイデアがユニークで選曲もよく、特別支援学級の演目は特に感動した。特別支援学級と通常学級の子どもたちの合同演奏も見たい。 学年ごとに工夫されたプログラムで、子どもたちに様々な役割があり、皆が生き生きしていた。 ・運動会は以前より競技が減っている。いろいろなタイプの児童が活躍できる場があるとよい。 ・本項目が高い評価であることが素晴らしい。児童が自主的に楽しみながら参加や企画をしている様子がうかがえる。

<p>Ⅶ 学校生活全般について</p> <p><生活指導></p> <ul style="list-style-type: none"> 生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて 	<p>◎保護者、児童、教職員ともに肯定的な評価が80%以上であり、学校生活全般への評価は概ね良好である。</p> <p>教職員が、組織的に生活指導に対応し、児童一人一人にいていねいな対応をし、保護者にそれらの成果を発信してきたことが要因ととらえられる。</p> <p>●地域の評価は70%にとどまる。日頃の学校の様子をお伝えする機会が少ないことが要因と考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日々の学校生活の中で児童の主体的な活動を充実させ、自己肯定感を高めるようにする。 児童理解の時間である「アセスメントタイム」を活用し、課題の共有や支援体制の検討を行う。その内容を全教員で共有し課題解決を行う。 特別支援教育研修を必ず1回位置付け、教員の生活指導力の向上を図る。 学校の様子を情報発信など、地域の皆様にも感じてもらう工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動や地域のイベント等をとおして顔見知りの子が増えた。街中で会っても挨拶をしてくれる。良い子たちに育っていると実感する。学校だけではなく、地域も含めて見守りをしていきたい。 児童や家庭の個性により、トラブルの性質も千差万別である。事務的で均質な対応ではなく、親身な対応をお願いする。 いじめの対応策を知りたい。
<p><防災教育・安全指導></p> <ul style="list-style-type: none"> 事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて 	<p>◎四者ともに肯定的な評価が80～95%の間であり、防災教育・安全指導への評価はかなり良好である。学校公開のアンケートにおいても、AED、担架づくりなど命を守る知識を学ぶことでいざというときに役立つと肯定的な意見が多数あった。</p> <p>今年度も、地域防災訓練を実施し、地域と共に防災教育・安全教育を行うことが要因ととらえられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 月に1度、様々な災害や事件に対応できるように避難訓練を計画する。 保護者を交え、関係機関と連携した地域防災訓練も年1度計画し、実施する。 定期的な安全点検を実施し、必要に応じ、関係機関と連携し課題の対処を図り、より危機意識の高い学校環境に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 頻繁に訓練を実施しているおかげで、災害時にも速やかで適切な対応ができることと安心している。今後もこの調子で続けてもらいたい。 防災も内容の工夫が必要ではないか。 毎年通学路安全点検をMAPの作成含めて実施してほしい。

<p><幼・保・小・中連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について ・近隣の幼稚園・保育園との連携について 	<p>◎教職員は肯定的な評価が95%以上であり、幼・保・小・中連携への評価は極めて良好である。目黒中央中校区の小中連携子ども育成プランの計画に沿って、いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議や運動会のお手伝い、鷹番小学校での職場体験等の実施、さらに、幼稚園・保育園との交流なども実施できたことが要因ととらえられる。</p> <p>●保護者の肯定的評価は50%あたりで幼・保・小・中連携への評価については課題となる。情報発信に努めているものの当該学年以外の保護者に理解してもらうまでには至っていないことが要因ととらえられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携については、目黒中央中校区の学校と育成目標を共通理解したり、児童と生徒が交流したり、教員同士が交流したりする機会を設定し、その活動の充実を図ることで質の高い連携を目指す。 ・幼保小の連携については、総合的な学習の時間や生活科の時間を活用し、児童の達成感や満足感が得られるような活動を実施することで質の高い連携を目指す。 ・幼保小の交流活動や小・中連携の活動の様子を適宜、児童や保護者、地域にわかりやすい形で発信の工夫を行うことで共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果が芳しくないのが気になるが、実際にいろいろ連携できているので、引き続き継続してもらいたい。
<p>Ⅷ 情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の情報発信の充実について 	<p>◎三者ともに肯定的な評価が80%以上であり、情報の発信、家庭・地域との連携への評価は概ね良好である。</p> <p>学校行事に関するお知らせを C4th Home & School 配信することに力を入れてきたことが要因ととらえられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・C4th Home & School 等を活用し、学校の学習活動や学校生活について日常的な情報発信に努める。 ・教職員、PTAが連携し、教育活動の充実と適切な情報発信に取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Home & School は地域には届かないので、地域への情報発信を検討したい。

<p>IX 教員の人材育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について 	<p>◎教職員は肯定的な評価が100%以上であり、教員の人材育成への評価は極めて良好である。「スキルアップタイム」を始め、学年内OJT、校務分掌OJTなど様々なOJTを実行したこともあるが、それ以上に教職員が協働性を発揮していたことが要因ととらえられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 40分授業午前5時間制で生み出した時間を有効活用して、指導方法の改善に向けた研修「スキルアップタイム」や教材研究を行う時間「コンテンツタイム」を充実させる。また、職員室等が自然とお互いの学びの場となるよう環境づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員のアンケート結果がとても高いのが素晴らしい。誇りをもって仕事に励んでいるのが児童に伝わっていることと思う。子どもたちの将来の就職へのモチベーションになると、より素晴らしい。 ・ 育成という点で、他校や他業種の短期研修等をする、視野が広がり、自分の仕事の見直しになると思う。
<p>X 教員の働き方改革について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について 	<p>◎教職員は肯定的な評価が95%以上であり、教員の働き方改革への評価は極めて良好である。ICT機器の活用や、校務分掌の見直しなどを積極的に行い、業務改善、効率化を図ったこと、また、会議の見直しや運営の改善をしてきたことが要因ととらえられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都や区の施策を積極的に活用し、一人あたりの持ち時数をできるだけ少なくなるよう工夫する。 ・ 校務用パソコンや学習用情報端末を活用し、校務の効率化、ペーパーレス化を図る。 ・ 職場全員で効率的に業務を遂行できるような環境作りに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の負担は少しずつ軽減しているのだろうか。 ・ ストレスの多い仕事かもしれないが、効率化できるところはどんどん実現させてほしい。 ・ 以前から考えていたが、1学年2クラスの場合、授業を2クラス一緒にして2名の教員が正副で授業を行うと、子どもにも目が行き届き、教員の負担も減るのではないか。教員も切磋琢磨で高め合える気がする。検討してほしい。
<p>XI 服務事故の防止について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 服務事故防止に向けた取組などについて 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度も、服務への研修を定期的実施し、一人一人の服務事故防止への意識の醸成を図ったので、服務事故は発生しなかった。しかし、個人情報漏洩等、教職員個人の油断や慢心によって服務事故につ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員の服務への意識を高めるために年度当初、夏季休業前、冬期休業前の年3回、服務研修を実施する。また、服務事故防止関連の都や区の通知を定期的に教職員に回覧し、服務事故防止の意識の醸成を図 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 服務事故が発生していない現状に満足している。今後も継続させてほしい。

	ながりかねない。組織として常に意識を高め続けることが重要と考える。	る。	
--	-----------------------------------	----	--